



シートクリーニング用リンサー SRV-01C

強力バキュームクリーナー機能付き

取扱説明書

保証書付き



このたびは、ヒダカ シートクリーニング用リンサー SRV-01C（強力バキュームクリーナー機能付き）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき安全に正しくご使用ください。
お読みになられた後は、本書をすぐに取り出せる場所に保管してください。

安全上の
注意

各部の名称

主な仕様

使用方法

アルカリ
電解水との
併用のしかた

お手入れの
しかた

故障かなと
思ったら

アフター
サービス
について

別売りアク
セサリー
補修部品

保証書

もくじ

1 安全上の注意	3
2 各部の名称	8 ～ 9
3 主な仕様	10 ～ 11
4 使用方法	
4-1 すすぎ洗い作業 (タンク内の水を吐出しながら、同時に汚水を 吸い上げたい時)	12 ～ 18
4-2 吐出作業 (タンク内の水を吐出のみしたい時)	19 ～ 22
4-3 吸水作業 (吸い上げ作業のみしたい時)	23 ～ 25
4-4 集じん作業<乾式> (乾燥したゴミやチリを吸い取りたい時)	26 ～ 28
4-5 集じん作業<湿式> (水分を含むゴミや液状の汚れを吸い取りたい時)	29 ～ 31
5 アルカリ電解水との併用のしかた	32 ～ 34
6 お手入れのしかた	35 ～ 37
7 故障かなと思ったら	38 ～ 40
8 アフターサービスについて	41
9 別売りアクセサリ・補修部品	42 ～ 45
10 保証書	46 ～ 47

1 安全上の注意

機械の性能を十分に発揮させるために、また安全にご使用いただくために、ご使用前に必ずお読みいただき、内容の十分な理解と遵守の上でご使用ください。

■表示の説明



警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷(* 1)を負うことが想定される内容を示します。



注意

取り扱いを誤った場合、使用者が障害(* 2)を負うことが想定されるか、または物的損害(* 3)、本体やパーツにダメージが発生したり破損する可能性があります。

* 1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの及び治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

* 2：障害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電をさします。

* 3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。



の記号は、**禁止（してはいけないこと）**を示します。



の記号は、**指示する行為の強制（必ずすること）**を示します。

■免責事項について

日高産業株式会社（以下「当社」）は次に示す損害に関して責任を一切負いかねます。

- ・地震、雷、風水害、雪害および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、およびお客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害。
- ・商品の使用または使用不能から生ずるいかなる他の損害（事業利益の損失、逸失利益、事業の中断など）。
- ・取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害。
- ・取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じたけが、疾病による損害。
- ・当社が関与しない機器との組み合わせによる誤動作、故障などから生じた損害。
- ・洗浄対象物に損傷、破損、変色などが生じた損害。

本書に記載した注意事項は、すべての起こり得る事象を網羅したものではございません。



警告



分解、改造はしない
故障・火災・感電・けがの原因になります。



純正部品以外の使用禁止
故障・火災・感電・けが・水漏れの原因になります。



故障した際は日高産業（株）に連絡すること
修理につきましては P41「本機の修理のながれ」に記載のとおり、アッセンブリー＜ASSY＞部品販売（送付）にて対応いたします。万一個人で分解等の修理を行って発生した不具合・事故に関しては一切責任を負いません。また、**個人で分解・修理等をされた製品は保証の対象外となります。**



作業は操作が容易なきちんとした服装で行う
故障・火災・感電・けが・水漏れの原因になります。



本体・電源プラグに水をかけない
感電する場合があります。



ぬれた手や身体で本機の操作や電源への接続を行わない
感電する場合があります。



使用電源は交流 100 V 50 または 60Hz で、定格 15 A 以上電気容量を有する電源を使用する
電圧や定格が異なると、火災・感電の原因になります。



引火性のもの（ガソリン・灯油・ベンジン・シンナーなど）や可燃性ガス（L P ガス、フロンガスなど）の近くで使用しない
爆発・火災の原因になります。



危険物や火気のある場所で使用しない
火災の原因となります。



危険物を洗剤や水の代りに注入しない
灯油、ガソリン、オイル、ワックス、塗料などの油性の液体を洗剤や水の代わりに注入しないでください。火災になるおそれがあります。



粉塵爆発の恐れある金属粉、樹脂粉、石炭、カーボン、コーンスターチなどやガソリン、灯油、溶剤など引火の恐れのある物質の吸引はしない
爆発・火災の原因になります。



以下のものは吸引しない
金属の研削、切断作業時に発生する火花／火のついた、たばこの吸い殻など高温のもの／発火性物質（アルミニウム、亜鉛、マグネシウム、チタン、赤リン、黄リン、セルロイドなど）／釘、カミソリの刃など鋭利なもの／油、熱湯、薬液



警告



禁止

電源コード、電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない
感電・ショート・発火の原因になります。電源コードに傷みがないか定期的に点検してください。



禁止

お手入れするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、ぬれた手で抜き差ししない
感電・けがの原因になります。



実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く
電源コードや電源プラグが傷つき感電・火災の原因になります。



禁止

子供には使わせない。また、使用者以外は手をふれさせたり近づけたりしない
誤って使用すると、感電やけがの原因になります。



実行

電源コードが傷んだり、差し込みプラグが発熱したときは、すぐにスイッチを切り、差し込みプラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。電源コードが傷んだら、日高産業(株)にご連絡ください。



実行

漏電しゃ断器が設置されたコンセントに接続する
万が一、漏電した場合に漏電しゃ断機の設置がないと、感電の原因になります。



禁止

人や動物に使用しない
けがや事故の原因になります。



実行

電源プラグは根元まで確実に差し込む
また、電源プラグのほこりや汚れはこまめにふきとる
火災・感電・発熱の原因になります。



実行

運転中に異常音・振動・異臭・発煙などが発生した場合は、すぐに本体の電源スイッチを「OFF」にして、電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、故障やけが・火災などの原因になります。直ちに使用を中止して、日高産業(株)にご相談ください。

注意



実行

洗浄は自己責任で行うこと

万一洗浄対象物に損傷、破損、変色などが生じた場合、もしくは正しく操作をせずにケガを負った場合、当社では一切の責任を負いません。



禁止

通気の悪い場所では使用しない 本体にカバーをかけて使用しない

過熱して、焼損の原因になります。



実行

すすぎ洗いや吐出作業の際、清水タンクへ入れる水は上水道水を使用すること。

上水道水以外の水を使用すると、故障の原因になります。



禁止

モーターヘッドを布やビニールなどで覆わない

冷却不足となり、モーター故障の原因になります。



禁止

41℃（度）以上の温水を給水しない

故障の原因になります。



禁止

周囲温度 摂氏 2℃以下では使用しない

凍結により、ポンプやモータの故障の原因になります。



実行

テスト洗浄をおこなうこと

初めて本機を使用する洗浄対象物の際は、最初に、損傷・破損・変色などが生じないか目立たない箇所で試すこと。



実行

本体は、平らで安定した場所に置いて使用する

しっかり安定させないと、転倒や故障・けがの原因になります。



実行

吸引中、ホース内に回収物が詰まった場合は、すぐに作業を中断し詰まりを解消する

そのまま使用を続けるとモーター故障の原因になります。



実行

付属品は正しく確実に取り付ける

接続箇所にゆるみがあったり、間違った取り付け方、使い方をすると、故障やけがの原因になります。



実行

水の吐出をしない時は、すみやかにポンプスイッチを「オフ」にすること

ポンプスイッチを入れたまま、水の吐出をしない状態が続くとポンプ故障の原因となります。



実行

電源コードを延長する場合は市販のコードリールで 15A 以上の容量の物を使用する

火災の原因となります。



実行

使用時間以外は、電源プラグをコンセントから抜く 水の吐出をしない時はスイッチを切ること

絶縁劣化による感電・漏電・火災・故障の原因になります。

注意



禁止

本体の上に乗ったり、重いものをのせたり、衝撃を加えない

変形・破損・故障の原因になります。



実行

使用後はこまめにお手入れをする



禁止

雨ざらしにしない

屋外で直射日光が当たる場所、雨・雪・水にぬれる場所で保管すると、故障の原因になります。



禁止

寒冷時は凍結の恐れのある場所には保管しない

凍結によりポンプが破損する恐れがあります。



禁止

1 回に 1 時間以上の連続使用をしない

本機の最大連続使用時間は 1 時間です。それ以上の使用はモーター故障の原因となります。連続 1 時間使用したら、1 時間以上休ませてください。

(連続使用時間とは、ポンプスイッチを入れてレバーを握り続け水を吐出し続けた時の時間、もしくはバキュームスイッチを入れて一度もスイッチを切ることなくバキュームし続けた時の時間です。実際の清掃作業時間とは異なります。)

2 各部の名称

本体

正面



背面



標準付属品

バキュームホース

せいすい
清水ホース

クリップ

納品時は、バキュームホースと清水ホースがクリップ4個で留められた写真の状態になっています。

せいすい
清水タンク

フィルター

納品時は、本体内部に入っています。

ハンドグリップ

ウォンド

アタッチメント
(吸い口)

丸ブラシ

スキマノズル

小ノズル



3 主な仕様

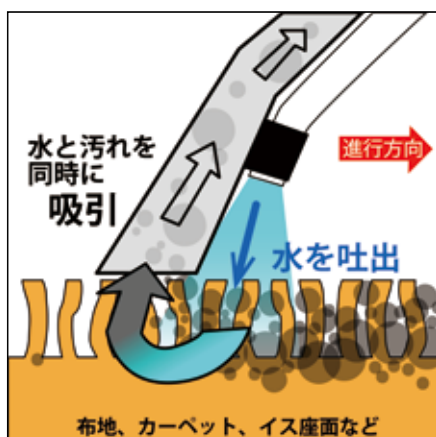
本体	
電源	単相 100V (50 または 60Hz)
バキューム	真空圧 23.50Kpa
	風量 57L/s
	モーター出力 1,150W (最大)
ポンプ	吐出圧力 2bar (0.2MPa)
	吐出水量 0.8L/min
	モーター出力 48W
寸法	約 W350mm × D370mm × H575mm
重量	13Kg
構造	二重絶縁 ※アース (接地) 必要なし

標準付属品	
タンク	清水タンク容量 6.2L
	総タンク容量 27L
	汚水回収容量 約 9L
バキュームホース	約 2,060mm
清水ホース	約 2,500mm
丸ブラシ	吸口 (ブラシ) 直径 65 mm
スキマノズル	吸口幅 約 36 mm 長さ 200mm
小ノズル	吸口幅 139 mm
フィルター	直径 298 mm H110 mm

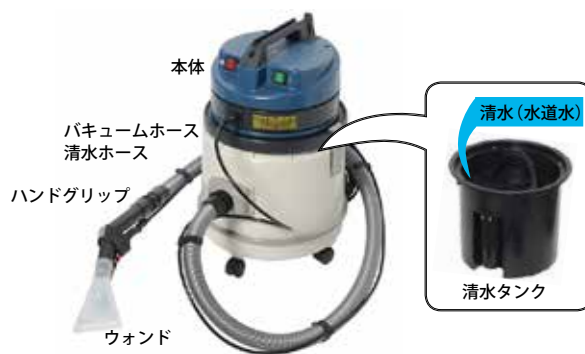
4 使用方法

4-1 すすぎ洗い作業

水を吹き付け、同時に汚れた水を吸い上げたい時



準備するもの



■作業前の準備

1. 清水（水道水）を清水タンクに入れてください。

1-1 モーターヘッドを固定しているラッチを外し、モーターヘッドを持ち上げてください。

1-2 清水タンクを取り出し、注入口より清水を入れてください。
(注入口よりあふれ出ない様にしてください。)



アルカリ電解水を使用する場合は、清水タンクにアルカリ電解水の希釈水を入れてください。(P32「5 アルカリ電解水との併用のしかた」参照)



必ずテスト洗浄をおこなってください。初めて使用する洗浄対象物の際は目立たない箇所で試してください。材質によっては損傷・破損・変色などが生じる事があります。

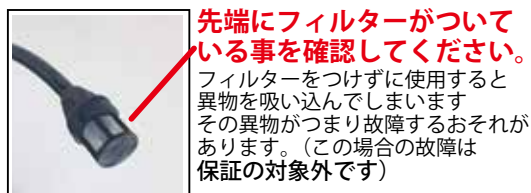
1-3 清水タンクを元に戻し、モーターヘッドを乗せラッチでしっかり固定します。このとき清水吸水ノズルを確実に清水タンクの注入口に挿入してください。(次ページ写真参照)



清水タンク上部に水があると、その水がモーター内部へ入り、故障の原因になります。よく拭き取ってからモーターヘッドを乗せてください。(次ページ写真参照)



この部分に水がないか確認してください。
水分があると、モーターに水が入り故障の原因になります。水が残っている場合はふき取ってください。



清水ホース接続口とバキュームホース接続口が正面で上下に並ぶのか正しい取付位置です。モーターヘッド取付時には、清水吸水ノズルを必ず清水タンクの注入口に差し込み、取付向きにご注意ください。

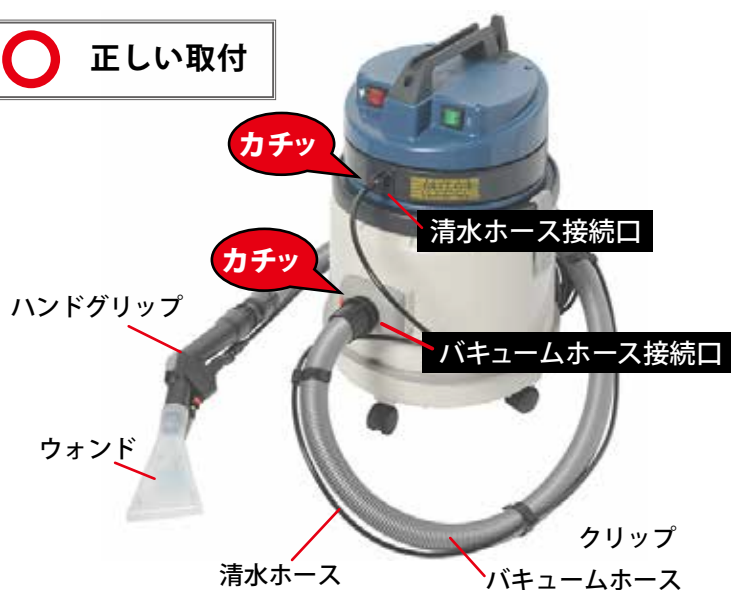


モーターヘッドを誤った向きで装着し、ご使用を続けた場合、清水吸水ノズルに曲がりや折れが生じ、正常に水を吸い上げなくなる可能性があります。

また、曲がってしまった清水吸水ノズルが清水タンク内の水位に到達せずエアを吸った状態で作動を続けると、渇水運転状態となりポンプの故障に繋がる可能性があります。

(お客様過失の、清水吸水ノズルの曲がりや折れ、及びに渇水運転による故障は、保証の対象外です。)

正しい取付



モーターヘッド 誤った取付例



2. バキュームホースと清水ホースをクリップで留めます。（作業時のホースの取り回しがよくなります。）

※最初の商品お届けの際は、バキュームホースと清水ホースは留めてあります。

※バキュームホースと清水ホースの向きをあわせて留めてください。

※クリップは4個付属しています。

3. バキュームホースの回収タンク接続側を、バキュームホース接続口にはめ、それ以上奥にいかなくなるまで差し込んでください。（「カチッ」と音がします。）

※取り外す時は接続口横の赤いロックを、左方向に指で押しながらホースを引き抜いてください。

4. 清水ホースのモーターヘッド接続側を、モーターヘッドにある清水ホース接続口に入れ「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

※取り外す時は接続口横の赤いロックを指で押しながらホースを引き抜いてください。

5. ハンドグリップにウォンドを取りつけてください。

5-1 ウォンドのハンドグリップ接続側に、ハンドグリップのウォンド接続側をそれ以上奥にいかなくなるまで差し込んでください。

5-2 ウォンドについている清水ホース（白）先端のオスカプラーを、ハンドグリップのメスカプラーに「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

※取り外す時は赤いロックを指で押しながらホースを引き抜いてください。

6. バキュームホースのハンドグリップ接続側を、ハンドグリップに取りつけてください。



7. ハンドグリップについている清水ホース（黒）のオスカプラーを、清水ホースのハンドグリップ接続側メスカプラーに「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
※取り外す時は、清水ホース側のシルバーのワンタッチジョイントを手前にスライドすることでロックがはずれます。その後、抜いてください。
8. バキューム及びポンプスイッチがオフ(0の位置)になっていることを確認の上、モーターヘッドの電源プラグを 100 ボルトコンセントに差し込みます。
9. 準備完了です。

■作業開始



アルカリ電解水や洗剤を使用する場合は、事前に洗浄対象面にスプレーをして、ブラシなどでなじませておきます。(P32「5 アルカリ電解水との併用のしかた」)



必ずテスト洗浄をおこなってください。初めて使用する洗浄対象物の際は目立たない箇所で試してください。材質によっては損傷・破損・変色などが生じる事があります。

1. モーターヘッドのバキュームスイッチ（赤）とポンプスイッチ（緑）をオンにしてください。
2. すすぎ洗い対象面にウォンドを押しあて、ハンドグリップのレバーを握って清水を吐出させながら手前に引くと、すすぎ洗いをしながら汚水を回収することができます。



3. 「2.」の作業を繰り返し、すすぎ洗い作業を行ないます。



清水タンクが空になるとハンドグリップのレバーを握っても清水が吐出されません。直ちに清水ポンプスイッチ及びバキュームスイッチをオフにして清水を補充してください。



回収タンクが満たんになるとフロートが作動して吸引力が極端に弱くなります。直ちにスイッチをオフにして、作業を中断し汚水を捨ててください。



フロートの作動などによって吸引を停止した状態でモーターを回し続けると、モーター燃損の原因となります。



水の吐出をしない時は、すみやかにポンプスイッチ（緑）を「オフ」にしてください。ポンプスイッチを入れたまま、水の吐出をしない状態が続くとポンプ故障の原因となります。

作業中に清水が吐出しなくなった場合は？

直ちにポンプスイッチ及びバキュームスイッチをオフにし、清水タンクに、清水を満タンになるまで補充してください。

※清水バケツ内の水が少なくなったにも関わらず作業を続行すると、湯水運転状態となりポンプの故障の原因になります。

※清水補充後、モーターヘッドは正しい位置に取付けしてください。また、清水吸水ノズルが正しくタンクの水に浸かっている状態になっているか確認をしてください。
(P13 写真参照)

※補充する清水の量が少ないと吸い上げないことがあります。

■作業終了後

1. モーターヘッドのポンプスイッチ及びバキュームスイッチをオフにしてください。
2. 電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。電源コードは折ったり、ひねったりせずに巻き取り、バキュームモーターヘッドにかけてください。



コードを引っ張ってプラグをコンセントから引き抜くと断線の原因となります。

3. ハンドグリップのレバーを握って、清水ホース内の圧力を抜いてください。
4. 本体に接続されているバキュームホース並びに清水ホースを取り外してください。バキュームホースと清水ホースは折ったりひねったりせずに巻き取り、いっしょにしてください。
5. モーターヘッドを取り外して、清水タンクを取り出し清水タンク内に残った清水を捨ててください。
6. 回収タンク内の汚水を捨てて、土砂などの沈殿物がある場合は、タンク内をすすぐなどしてきれいにしてください。
7. 清水タンク及びモーターヘッドを本体に戻してください。**清水ホース接続口とバキュームホース接続口が正面で上下に並ぶのが正しい取付位置です。**モーターヘッド取付時には、清水吸水ノズルを必ず清水タンクの注入口に差し込み、取付向きにご注意ください。

すすぎ洗い作業後の乾燥について

作業を行った後の対象布製品は、**湿っています。**

作業直後に「完全に乾燥」という状態にはなりません。

(吹き付けた水を完全に吸い上げることはできません。)

その後は、そのまま自然乾燥させるという手順になります。

乾燥までの時間の目安は、使用した水量、気温、湿度によって

大きく変わりますが、平均すると7～8時間程です。

(一般的にどのメーカーのマシンでも乾燥時間は必要です。)

乾燥時間短縮の為におすすめの作業

＜お客様より実際に行っている作業を教えてください＞

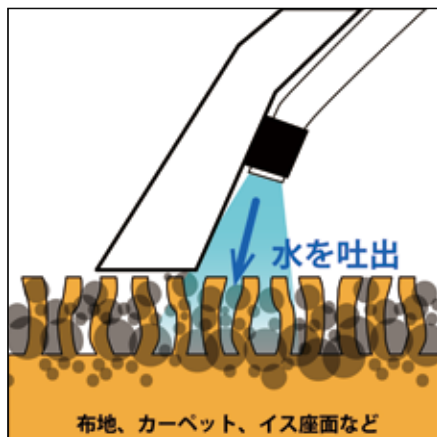
- ・すすぎ洗いをした後の湿ったシートに、吸水作業のみ（P23～25）を何度か繰り返し、残った水分を吸引する。何度かこの作業を繰り返す事で多少乾燥までの時間が短くなる。
- ・（車内清掃の場合）車のエンジンをかけて空調をつけておく。
- ・早期乾燥を目的として、シロッコファンという送風機を使用する。（シロッコファンとは通常の扇風機とは違い、一様流〈まっすぐな風〉を生成するマシンです。)

日高産業では【キャリーブロア CB55K】を販売しております。

ご興味のある方はヒダカショップ商品ページをご覧ください。

4-2 吐出作業

水の吐出のみしたい時



準備するもの



※バキュームホースは使用しませんが、とりつけたままで問題はありません。

■作業前の準備

1. 清水（水道水）を清水タンクに入れてください。

1-1 モーターヘッドを固定しているラッチを外し、モーターヘッドを持ち上げてください。

1-2 清水タンクを取り出し、注入口より清水を入れてください。
(注入口よりあふれ出ない様にしてください。)



アルカリ電解水を使用する場合は、清水タンクにアルカリ電解水の希釈水を入れる。(P32「5 アルカリ電解水との併用のしかた」参照)



必ずテスト洗浄をおこなってください。初めて使用する洗浄対象物の際は目立たない箇所で試してください。材質によっては損傷・破損・変色などが生じる事があります。

1-3 清水タンクを元に戻し、モーターヘッドを乗せラッチでしっかり固定します。このとき清水吸水ノズルを確実に清水タンクの注入口に挿入してください。(P13 写真参照)



清水タンク上部に水があると、その水がモーター内部へ入り、故障の原因になります。よく拭き取ってからモーターヘッドを乗せてください。(下記写真参照)



清水ホース接続口とバキュームホース接続口が正面で上下に並ぶのが正しい取付位置です。モーターヘッド取付時には、清水吸水ノズルを必ず清水タンクの注入口に差し込み、取付向きにご注意ください。

モーターヘッドを誤った向きで装着し、ご使用を続けた場合、清水吸水ノズルに曲がりや折れが生じ、正常に水を吸い上げなくなる可能性があります。

また、曲がってしまった清水吸水ノズルが清水タンク内の水位に到達せずエアを吸った状態で作動を続けると、湯水運転状態となりポンプの故障に繋がる可能性があります。

(お客様過失の、清水吸水ノズルの曲がりや折れ、及びに湯水運転による故障は、保証の対象外です。)

2. 清水ホースのモーターヘッド接続側を、モーターヘッドにある清水ホース接続口に入れ「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

※取り外す時は接続口横の赤いロックを指で押しながらホースを引き抜いてください。

3. ハンドグリップにウォンドを取りつけてください。
 - 3-1 ウォンドのハンドグリップ接続側に、ハンドグリップのウォンド接続側をそれ以上奥にいかなくなるまで差し込んでください。
 - 3-2 ウォンドについているの清水ホース（白）先端のオスカプラーを、ハンドグリップのメスカプラーに「カチッ」と音がするまで差し込んでください。（P14 写真参照）※取り外す時は赤いロックを指で押しながらホースを引き抜いてください。
4. ハンドグリップについている清水ホース（黒）のオスカプラーを、清水ホースのハンドグリップ接続側メスカプラーに「カチッ」と音がするまで差し込んでください。（P14 写真参照）
※取り外す時は、清水ホース側のシルバーのワンタッチジョイントを手前にスライドすることでロックがはずれます。その後、抜いてください。
5. バキューム及びポンプスイッチがオフ（0の位置）になっていることを確認の上、モーターヘッドの電源プラグを 100 ボルトコンセントに差し込みます。
6. 準備完了です。

■作業開始



アルカリ電解水や洗剤を使用する場合は、事前に洗浄対象面にスプレーをして、ブラシなどでなじませておきます。（P32「5 アルカリ電解水との併用の仕方」参照）



必ずテスト洗浄をおこなってください。初めて使用する洗浄対象物の際は目立たない箇所で試してください。材質によっては損傷・破損・変色などが生じる事があります。

1. モーターヘッドのポンプスイッチ（緑）をオンにしてください。
2. 対象面にウォンドを押しあて、ハンドグリップのレバーを握って清水を吐出させてください。



水の吐出をしない時は、すみやかにポンプスイッチ（緑）をオフにしてください。ポンプスイッチを入れたまま、水の吐出をしない状態が続くとポンプ故障の原因となります。

作業中に清水が吐出しなくなった場合は？

直ちにポンプスイッチ及びバキュームスイッチをオフにし、清水タンクに、清水を満タンになるまで補充してください。

※清水バケツ内の水が少なくなったにも関わらず作業を続行すると、過水運転状態となりポンプの故障の原因になります。

※清水補充後、モーターヘッドは正しい位置に取付けしてください。また、清水吸水ノズルが正しくタンクの水に浸かっている状態になっているか確認をしてください。（P13 写真参照）

※補充する清水の量が少ないと吸い上げない事があります。

■作業終了

1. モーターヘッドのポンプスイッチ（緑）をオフにしてください。
2. 電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。電源コードは折ったり、ひねったりせずに巻き取り、モーターヘッドにかけてください。

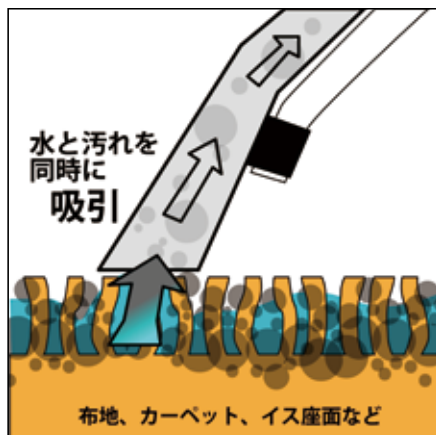


コードを引っ張ってプラグをコンセントから引き抜くと断線の原因となります。

3. ハンドグリップのレバーを握って、清水ホース内の圧力を抜いてください。
4. 本体に接続されている清水ホースを取り外してください。清水ホースは折ったりひねったりせずに巻き取ってください。
5. モーターヘッドを取り外して、清水タンクを取り出し、清水タンク内に残った清水を捨ててください。
6. 清水タンク及びモーターヘッドを本体に戻してください。清水ホース接続口とバキュームホース接続口が正面で上下に並ぶのが正しい取付位置です。モーターヘッド取付時には、清水吸水ノズルを必ず清水タンクの注入口に差し込み、取付向きにご注意ください。

4-3 吸水作業

吸水作業のみ行う時



準備するもの



※清水ホースは使用しませんが、とりつけたままで問題はありません。

■作業前の準備

1. モーターヘッドを固定しているラッチを外し、モーターヘッドを持ち上げて清水タンクが装着されている事を確認します。(吸水作業のみを行う場合は、清水タンク内に清水を入れる必要はありません。) 確認後はモーターヘッドを乗せラッチでしっかり固定してください。



清水タンクを装着してください。清水タンクを装着せずに吸水作業を行うと、汚水がモーター内に入り故障の原因となります。



清水ホース接続口とバキュームホース接続口が正面で上下に並ぶのが正しい取付位置です。モーターヘッド取付時には、清水吸水ノズルを必ず清水タンクの注入口に差し込み、取付向きにご注意ください。

モーターヘッドを誤った向きで装着し、ご使用を続けた場合、清水吸水ノズルに曲がりや折れが生じ、正常に水を吸い上げなくなる可能性があります。

(お客様過失の、清水吸水ノズルの曲がりや折れ、及びに過水運転による故障は、保証の対象外です。)

2. バキュームホースの回収タンク接続側を、バキュームホース接続口にはめ、それ以上奥にいかなくなるまで差し込んでください。（「カチッ」と音がします。）
※取り外す時は接続口横の赤いロックを、左方向に指で押しながらホースを引き抜いてください。
3. ハンドグリップにウォンドを取りつけてください。（ウォンドのハンドグリップ接続側に、ハンドグリップのウォンド接続側をそれ以上奥にいかなくなるまで差し込んでください。）
4. バキュームホースのハンドグリップ接続側を、ハンドグリップに取りつけてください。
5. バキューム及びポンプスイッチがオフ（0の位置）になっていることを確認の上、モーターヘッドの電源プラグを 100 ボルトコンセントに差し込みます。
6. 準備完了です。

■作業開始

1. モーターヘッドのバキュームスイッチ（赤）をオンにしてください。
2. 吸水作業を開始してください。

吸引調節力バー

「ハンドグリップ」の吸引調節力バーを閉めると吸引力が強くなります。

吸引調節力バー



閉める→吸引力**強**



開ける→吸引力**弱**



回収タンクが満タンになるとフロートが作動して吸引力が極端に弱くなります。直ちにスイッチをオフにして、作業を中断し汚水を捨ててください。



フロートの作動などによって吸引を停止した状態でモーターを回し続けると、モーター燃損の原因となります。

■作業終了後

1. モーターヘッドのバキュームスイッチ（赤）をオフにしてください。
2. 電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。電源コードは折ったり、ひねったりせずに巻き取り、モーターヘッドにかけてください。



コードを引っ張ってプラグをコンセントから引き抜くと断線の原因となります。

3. 本体に接続されているバキュームホースを取り外してください。バキュームホースは折ったりひねったりせずに巻き取ってください。
4. モーターヘッドを取り外して、清水タンクを取り出してください。
5. 回収タンク内の汚水を捨てて、土砂などの沈殿物がある場合は、タンク内をすぐなどしてきれいにしてください。清水タンク及びモーターヘッドを本体に戻してください。清水ホース接続口とバキュームホース接続口が正面で上下に並ぶのが正しい取付位置です。モーターヘッド取付時には、清水吸水ノズルを必ず清水タンクの注入口に差し込み、取付向きにご注意ください。

4-4 集じん作業<乾式>

乾燥したゴミやチリを吸い取りたい時



準備するもの



※清水ホースは使用しませんが、とりつけたままで問題はありません。

■作業前の準備

1. フィルターを装着してください。

- 1-1 モーターヘッドを固定しているラッチを外し、モーターヘッドを持ち上げてください。
- 1-2 清水タンクを取り出してください。(※清水タンクはこの作業では使用しないため、はずしておきます。)
- 1-3 回収タンクが空であることを確認し、フィルターを回収タンクに装着してください。
- 1-4 モーターヘッドについている清水吸水ノズルをフィルターの内側にきれいに収めながら、モーターヘッドを回収タンクにませラッチでしっかり固定してください。



乾式の集じん作業の際は、必ずフィルターを装着してください。
フィルターを装着せずに吸じんすると粉じんがモーター内に入り故障の原因となります。

2. バキュームホースの回収タンク接続側を、バキュームホース接続口にはめ、それ以上奥にいかなくなるまで差し込んでください。(「カチッ」と音がします。)※取り外す時は接続口横の赤いロックを、左方向に指で押しながらホースを引き抜いてください。
3. バキュームホースのアタッチメント接続側に用途に応じたアタッチメント（吸い口）を取り付けてください。
4. バキューム及びポンプスイッチがオフ(0の位置)になっていることを確認の上、モーターヘッドの電源プラグを 100 ボルトコンセントに差し込みます。
5. 準備完了です。



キャスターにストッパーが付いていない為、傾斜のある場所に置くと動いてしまう恐れがあります。ご注意ください。

■作業開始

1. フィルターが装着されていることを確認してください。(「■作業前の準備」で確認をしている場合はここでの確認は不要です。)



乾式の集じん作業を行う際は、必ずフィルターを装着してください。フィルターを装着せずに吸じんを行うと粉じんがモーター内に入り故障の原因となります。

2. バキュームスイッチ（赤）のみオンにし、集じん作業を開始してください。

吸引調節力バー

「ハンドグリップ」の吸引調節力バーを閉めると吸引力が強くなります。

吸引調節力バー



閉める→吸引力強



開ける→吸引力弱

■作業終了後

1. モーターヘッドのバキュームスイッチ（赤）をオフにしてください。
2. 電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。電源コードは折ったり、ひねったりせずに巻き取り、モーターヘッドにかけてください。



コードを引っ張ってプラグをコンセントから引き抜くと断線の原因となります。

3. 本体に接続されているバキュームホースを取り外してください。バキュームホースは折ったりひねったりせずに巻き取ってください。
4. モーターヘッドを取り外して、フィルターを外し、軽く叩いてゴミやホコリを取り除いてください。
5. タンク内の回収物（ごみ・チリ）を捨ててください。
6. 清水タンク（またはフィルター）、モーターヘッドを回収タンクに戻してください。



フィルターが目詰まりしていると吸引能力が低下するばかりでなく、モーター故障の原因となりますので、使用后必ずゴミやホコリを取り除いてください。

4-5 集じん作業＜湿式＞

水分を含むゴミや液状の汚れを吸い取りたい時



準備するもの



※清水ホースは使用しませんが、とりつけたままで問題ありません。

■作業前の準備

1. モーターヘッドを固定しているラッチを外し、モーターヘッドを持ち上げて清水タンクが装着されている事を確認します。（集じん作業＜湿式＞を行う場合は、清水タンク内に清水を入れる必要はありません。）確認後はモーターヘッドを乗せ、ラッチでしっかり固定してください。



湿式の集じん作業を行う際は必ず、清水タンクを装着してください。清水タンクを装着せずに、集じん＜湿式＞を行うと、汚水がモーター内に入り故障の原因となります。



清水ホース接続口とバキュームホース接続口が正面で上下に並ぶのが正しい取付位置です。モーターヘッド取付時には、清水吸水ノズルを必ず清水タンクの注入口に差し込み、取付向きにご注意ください。

モーターヘッドを誤った向きで装着し、ご使用を続けた場合、清水吸水ノズルに曲がりや折れが生じ、正常に水を吸い上げなくなる可能性があります。

（お客様過失の、清水吸水ノズルの曲がりや折れ、及びに過水運転による故障は、保証の対象外です。）

2. バキュームホースの回収タンク接続側を、バキュームホース接続口にはめ、それ以上奥にいかなくなるまで差し込んでください。(「カチッ」と音がします。) ※取り外す時は接続口横の赤いロックを、左方向に指で押しながらホースを引き抜いてください。
3. バキュームホースのアタッチメント接続側に用途に応じたアタッチメント（吸い口）を取りつけてください。
4. バキュームスイッチ（赤）とポンプスイッチ（緑）がオフ（0 の位置）になっていることを確認の上、 モーターヘッドの電源プラグを 100 ボルトコンセントに接続します。
5. 準備完了です。

■作業開始

1. 清水タンクが装着されていることを確認してください。(「■作業前の準備」で確認をしている場合はここでの確認は不要です。)



湿式の集じん作業を行う際は必ず、清水タンクを装着してください。清水タンクを装着せずに、集じん<湿式>を行うと、汚水がモーター内に入り故障の原因となります。

2. モーターヘッドのバキュームスイッチ（赤）をオンにしてください。
3. 集じん作業を開始してください。



回収タンクがゴミや汚水で満タンになるとフロートが作動して吸引力が極端に弱くなります。直ちにスイッチをオフにして、作業を中断しゴミと汚水を捨ててください



フロートの作動などによって吸引を停止した状態でモーターを回し続けると、モーター燃損の原因となります。

吸引調節力バー

「ハンドグリップ」の吸引調節力バーを閉めると吸引力が強くなります。



■作業終了後

1. モーターヘッドのバキュームスイッチ（赤）をオフにしてください。
2. 電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。電源コードは折ったり、ひねったりせずに巻き取り、モーターヘッドにかけてください。



コードを引っ張ってプラグをコンセントから引き抜くと断線の原因となります。

3. 本体に接続されているバキュームホースを取り外してください。バキュームホースは折ったりひねったりせずに巻き取ってください。
4. モーターヘッドを取り外して、清水タンクを取り出してください。
5. 回収タンク内の回収したゴミや汚水を捨てて、土砂などの沈殿物がある場合は、タンク内をすすぐなどしてきれいにしてください。清水タンク及びモーターヘッドを本体に戻してください。**清水ホース接続口とバキュームホース接続口が正面で上下に並ぶのか正しい取付位置です。**モーターヘッド取付時には、清水吸水ノズルを必ず清水タンクの注入口に差し込み、取付向きにご注意ください。

5 アルカリ電解水との併用のしかた

アルカリ電解水とは

アルカリ電解水とは「水」を電気分解して、液性を高アルカリ性にしたものです。高アルカリ性の特性で、「油汚れ」や「タンパク質汚れ（体から出る老廃物・血液など）」をおとす作用に優れています。

本機と併用する事で、布製品に付着・しみ込んだ上記の汚れをしっかりと取り除きます。

また、汚れを取り除くだけでなく、**消臭・除菌効果***があります。

成分はアルカリ電解水 100%。

界面活性剤、発砲剤、香料などは含みません。（市販されているものの中には添加物を含む商品もあります。「ヒダカ強アルカリ電解水（pH13.2）」はアルカリ電解水 100% です。）

小さなお子さんも触れる車の内装にも安心して使用できます。

もとは「水」で、空気にふれるとまた「水」にもどっていきます。

洗剤残りを気にして**何度もすすぎをする必要がなく**、清掃作業の効率化と簡略化に役立ちます。



20L 品番：hpw-1200



4L 品番：hpw-1040

お買い求め・
お問い合わせは
日高産業（株）
までご連絡ください。

ヒダカ 強アルカリ電解水（pH13.2）

- ・油汚れ、タンパク質汚れに強い。
- ・布製品にしみ込んだ汚れをしっかりと取り除く。
- ・消臭効果あり。車内の嫌なにおい取りに！
- ・除菌効果※もあり。
- ・成分には界面活性剤、発砲剤、香料など含まないアルカリ電解水 100%。赤ちゃんやペットの触れる場所にも使用できます。
- ・空気にふれると「水」にもどるので洗剤残りの心配なし。何度もすすぐ必要がなく清掃作業がスピードアップ。
- ・布シートだけでなく、ボディや内装の洗浄にも使える！
- ・水道水で希釈して使用するので経済的。

※すべての菌を除去したり抑えたりするわけではありません。
詳細はアルカリ電解水の取扱説明書でご確認ください。

本機とアルカリ電解水を併用する方法

ひどい汚れの場合

- ① アルカリ電解水の希釈液を、洗浄対象面にスプレーし、ブラシでブラッシングして汚れとなじませてください。
pH11.5~12 の希釈液をスプレーしてください。
(pH13.2 のアルカリ電解水を、水道水で約 50~16 倍に薄めたもの)
pH12 以上の希釈液は、機械の故障の原因になります。また洗浄対象物に損傷・破損・変色などが生じる恐れがあります。



必ずテスト洗浄をおこなってください。初めて使用する洗浄対象物の際は目立たない箇所で試してください。材質によっては損傷・破損・変色などが生じる事があります。

- ② 対象面に対して「すすぎ洗い作業 (P12~18 参照)」を行います。
(清水タンクに清水〈水道水〉を入れて作業してください。)
- ③ その後、汚れの落ち具合や対象面の乾燥具合を見て、「すすぎ洗い作業」もしくは「吸水作業 (P23 ~ 25 参照)」を、お好みで行ってください。

かるい汚れの場合

- ① 清水タンクにアルカリ電解水の希釈液を入れて「すすぎ洗い作業 (P12 ~ 18 参照)」を一度行ってください。
清水タンクには、pH11.5~12 の希釈液を入れてください。
(pH13.2 のアルカリ電解水を、水道水で約 50~16 倍に薄めたもの)
pH12 以上の希釈液を入れると、機械の故障の原因になります。
また洗浄対象物に損傷・破損・変色などが生じる恐れがあります。



必ずテスト洗浄をおこなってください。初めて使用する洗浄対象物の際は目立たない箇所で試してください。材質によっては損傷・破損・変色などが生じる事があります。

-
- ② 清水タンク内のアルカリ電解水希釈液を捨ててください。
- ③ その後、清水タンクに清水を入れてもう一度「すすぎ洗い作業（P12～18 参照）」を行ってください。

ポイント

清水タンクにアルカリ電解水希釈液を入れて使用する場合は定期的に、クエン酸を溶かした水を清水タンクに入れて、ウォンドから吐出させ、機械内部を洗浄してください。

この作業をしない場合、カルキ分がポンプ内・ホース内に残ることで故障の原因となります。

本機と市販の洗剤を併用する場合

本機と市販の洗剤を併用しての布製品の洗浄は、洗剤残り（残留洗剤成分）の観点からおすすめいたしません。

（時間が経つと水にもどるので、洗剤成分が残留しない「ヒダカ 強アルカリ電解水（pH13.2）」の併用をおすすめいたします。）

もし、市販の洗剤を使用する際は下記の点にご注意ください。

- ・ **清水タンクに市販の洗剤を入れてのご使用はしないでください。**
- ・ 洗浄面に事前に洗剤をスプレーする場合は、**低発泡性の洗剤**をご使用ください。
- ・ 泡がたってしまう場合は、消泡剤を使用してください。
（発泡性洗剤をご使用されると、発生した泡が原因でバキュームモーターの故障の原因になることがあります。また、回収タンクに余裕があるのに泡で満タンと感知してフロートが作動し吸引力が極端に弱くなります。）

6 お手入れのしかた

■ご使用後は、必ずタンク内の汚水や清水を捨ててから保管してください。

- ・回収タンク内の回収した汚水を捨て、土埃やじゅうたんのムダ毛などがある場合は、タンク内をすすぐなどしてきれいにしてください。
- ・清水タンクに洗剤などを入れて使用した後は、タンク内に残った洗剤を捨て清水でタンク内をすすいできれいにしてください。

■作業終了後は必ずモーターヘッド、ハンドグリップなどを布などで拭き取り、汚れを残さないようにしてください。

■お手入れは電源プラグを抜いた状態で、定期的に行ってください。

■ウォンド、バキュームホースは定期的にきれいに洗って保管してください。

- ・バキュームホースと清水ホースは折ったりひねったりしないでください。

■コードは束ねて保管してください。

- ・折ったり、ひねったりしないでください。

■キャスターにストッパーが付いていませんので、平らで動かない場所に保管してください。

■モーターヘッドは正しい位置で取付け、清水吸水ノズルは、清水タンクに差し込んで保管してください。(P13 写真参照)

- ・誤った取付けのまま保管すると、清水吸水ノズルに曲がりや折れが生じ、正常に水を吸い上げなくなる可能性があります。
- ・お客様過失の、清水吸水ノズルの曲がりや折れ、及びに湯水運転による故障は、保証の対象外です。

■集じん作業を行った後はバキュームモーターヘッドを取り外して、フィルターを外し、軽く叩いてゴミやホコリを取り除いてください。

- ・フィルターは水洗いしないでください。
- ・フィルターが目詰まりしていると吸引能力が低下するばかりでなく、モーター故障の原因となりますので使用後必ずゴミやホコリを取り除いてください。

清水タンクにアルカリ電解水希釈液を入れて使用する場合

■定期的に、クエン酸を溶かした水を清水タンクに入れて、ウォンドから吐出させ、機械内部を洗浄してください。

- ・この作業をしない場合、カルキ分がポンプ内・ホース内に残ることで故障の原因となります。

7 故障かなと思ったら

本機に異常が見られた時は、次の点を調べてください。

それでも不具合が解消しない場合には日高産業（株）までご相談ください。

こんなときは	点検の項目	その対策
スイッチを入れても始動しない	電源側のブレーカーが飛んでいませんか	ブレーカーを復帰させてください。
	電源プラグはコンセントにしっかり差し込まれていますか	電源プラグをしっかり差し込んでください。
	電源コードがつぶれたり、切れたりしていませんか	モーターヘッドの交換となります。日高産業（株）まで連絡をしてください。
	本機の電源プラグを差しているコンセントに、他の電化製品の電源プラグを差して一緒に使用していませんか	他の電化製品に接続しているものを外してご使用ください。
	「バキュームスイッチ（赤）」 「ポンプスイッチ（緑）」 両方とも入りませんか？	両方の場合：電源（ブレーカー）・コード・コンセント周りの確認をし、それでも始動しない場合故障の可能性があります。日高産業（株）まで連絡をしてください。 バキューム（赤）のみの場合：長時間、ご使用されて機械内部の温度があがり、安全装置が働いている可能性があります。 30分ほど製品内部を冷やしてから再度試してみてください。それでも始動しない場合故障の可能性がありますので日高産業（株）まで連絡をしてください。 ポンプ（緑）のみの場合：圧がかかっている状態では微弱な音しかしないので、聞こえていない可能性があります。再度ご確認ください。長時間、ご使用されて機械内部の温度があがり、安全装置が働いている可能性があります。 30分ほど製品内部を冷やしてから再度試してみてください。それでも、始動しない場合は故障の可能性がありますので日高産業（株）まで連絡をしてください。

こんなときは	点検の項目	その対策
水が吐出しない	清水タンクに水は入っていますか	清水タンクに水が入っているか確認をしてください。
	清水吸水ノズルがきちんと清水タンクに入っていますか	清水吸水ノズルがしっかり清水タンクの内部まで入っている事を確認してください。
	清水ホースがしっかり接続されていますか	清水ホースをしっかり接続してください。
	清水ホース内に空気が入っていませんか	ハンドグリップのレバーを少しの時間握り続けて空気抜きをしてください。
	清水吸水ノズルが強く湾曲したり、折れてしまっていないか	強く湾曲している場合、先端が清水タンク内水位に到達せずエアを吸っている可能性があります。ドライヤーやお湯（熱湯は不可）で熱を加えながら力を加えるとなおります。（完全に真っ直ぐにはなりません。） 内部まで折れてしまい、水が吸えない場合は、修理（アッセンブリー＜ASSY＞部品交換）が必要です。日高産業（株）まで連絡をしてください。（お客様過失の曲がりや折れは保証の対象外です。）
	モーターヘッドの取り付け方向に間違いはないですか（P13 写真参照）	向きが違うと清水吸水ノズルが清水タンクに入りません。 清水吸水ノズルを清水タンクに先に差し込み、ヘッドを取付けてください。
	清水吸水ノズル先の「フィルター」はついていますか（P13 写真参照）	フィルターをつけずに吸水すると、吸い込んだ異物が、清水吸水ノズルもしくはポンプ内部に詰まり、水が吐出できなくなる可能性があります。 修理（アッセンブリー＜ASSY＞部品交換）が必要です。日高産業（株）まで連絡をしてください。（フィルターを取り付けずに、吸い上げた異物のつまりによる故障などは、保証の対象外です。）
清水ホースから、水もれする	どの部分から水もれしていますか	本体、ウォンド、ハンドグリップと清水ホースの接続部：「カチッ」としっかりと合っているか確認してください。 その他：破損の可能性があります。日高産業（株）まで連絡をしてください。

こんなときは	点検の項目	その対策
モーターヘッドから水もれする	清水タンク上部に水がたまっていますか (P13 写真参照)	タンク上部に水がある：内部の水滴を吸いこんでしまっている可能性があります。 清水タンク上部の水をふき取ってから、バキュームを空運転※してください。 タンク上部に水はない：湿気がモーター内部に残っている可能性があります。 バキュームを空運転※してください。
	洗剤をご使用ですか	洗剤をバキュームし、内部で泡が立ち、フロートが上がらない状態で、汚水などを吸い込んでいる場合があります。汚水を捨て、フロートも洗浄してからバキュームを空運転※してください。
吸引力が弱い	ハンドグリップの吸引調節カバーが開いていませんか	吸引調節カバーを閉めると吸引力が強くなります。
	フィルターが目詰まりしていませんか	フィルターの清掃を行ってください。
	スモールヘッド、スキマノズル、丸ブラシやホース内に異物が詰まっていますか	詰まったものを取り除いてください。
	タンク内の汚水が満タンになっていませんか	汚水を捨ててください。
	バキュームホースはしっかり接続されていますか	しっかり接続してください。
バキュームホースのカフスパーツの隙間から空気がもれる 	バキュームホースとカフスパーツはしっかり接続されていますか	カフスパーツとバキュームホースは、ねじ込み式です。 ねじ込みがあまいと空気がもれる事があります。 バキュームホースをカフスパーツにしっかりねじこんでください。
吸引しない	回収タンクが吸引した汚水や回収物で満タンになっていませんか	汚水や回収物を投棄してください。
異音をする	どこから、どんな音が出ていますか	日高産業までご連絡ください。
焦げ臭い・熱くなる	どの部分が熱くなりますか	ご使用をすぐに中止してスイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いて、日高産業までご連絡ください。

※「空運転」とはバキュームのスイッチを入れて、モーター内に空気を通すことです。

8 アフターサービスについて

本機のアフターサービスは以下のように実施させていただきます。

- 1 本取扱い説明書には保証書を添付してあります。大切に保管してください。
- 2 保証期間は納入から1年間です。
- 3 保証書の記載内容により弊社が対応いたします。詳細は保証書をご覧ください。
- 4 保証書期間経過後の修理及びご不明な点がございましたら、日高産業（株）にお問い合わせください。

本機の修理のながれ

－不具合発生－

- ①本取扱い説明書の「7 故障かなと思ったら」をご覧ください。
- ②「①」で不具合が解消されない時は、日高産業（株）へお電話にてご連絡ください。
- ③スタッフより、お電話でご確認事項などをご案内し、不具合の原因の解明や、故障箇所の特定を行います。（お電話で解決することもあります。）
- ④「③」で特定させていただいた、故障箇所の部品（その部分を構成しているユニット全体）を日高産業（株）よりお送りします。（アッセンブリー＜ASSY＞部品販売）
- ⑤部品が届きましたら、お客様により故障箇所（部品）と交換してご使用ください。
※アッセンブリー＜ASSY＞部品をお送りいたしますので、専門的な道具や知識は必要ございません。
※故障箇所（部品）はお客様にて廃棄をお願いいたします。

保証期間内の修理については P46～47「10 保証書」をご覧ください。

9 別売りアクセサリー・補修部品

別売りアクセサリー	4m ホースセット srv-0006	 4m バキュームホース 4.5m 清水ホース クリップ 8 個	3m ホースセット srv-0005	 3m バキュームホース 3.5m 清水ホース クリップ 6 個
	ドライ用 フロアノズル srv-0001		ウェット用 フロアノズル srv-0002	
	ウェット&ドライ用 フロアノズル srv-0003		延長パイプ srv-0004-set	
	フロアすすぎ 洗い用ノズル srv-0007		ダイレクト接続 ウォンド srv-0030	
	ヒダカ 強アルカリ電解水 (pH13.2) 20L hpw-1200		ヒダカ 強アルカリ電解水 (pH13.2) 4L hpw-1040	

補修部品 (交換部品)	モーターヘッド srv-0011		回収タンク srv-0022	
	フィルタ srv-0012		清水タンク srv-0023	
	2m バキュームホース srv-0019		2.5m 清水ホース srv-0020	
	標準 ホースセット srv-0018	2m バキュームホース 2.5m 清水ホース クリップ 4 個 	ハンドグリップ srv-0016	
	ウォンド srv-0017		丸ブラシ srv-0013	
	スキマノズル srv-0014		小ノズル srv-0015	

別売りアクセサリ・補修部品

補修部品 (交換部品)	クリップ 4 個セット srv-0021		フィルターキット srv-0027	  モーターヘッドの 清水吸水ノズル先取付用

10 保証書

形式	SRV-01C	製造番号
お客様	お名前	様
	ご住所	
	電話	
保証期間	お買い上げ日	
	納入日	
	本体 (付属品・消耗品は 含みません)	1 年間

本書は、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きによる正常なご使用で お買い上げから、上記保証期間内に故障した場合に、下記の記載内容にて無料修理させていただきます。

■保証の内容

○ 保証の適用

この保証は日本国内で使用される弊社商品のみに適用いたします。
海外へ持ち出す場合は、その時点で保証が抹消されます。
保証できない事項に関しては、次ページをご覧ください。

○ 保証期間内の修理の申し込み方法

まずは、ご購入の際に受領されたレシートもしくは納品書と上記保証書をご用意のうえ、日高産業（株）までご連絡ください。
製造番号は、商品の側面もしくは後部に貼られているラベルに記載されています。
ご不明な点がございましたら、日高産業（株）までご連絡ください。

○ 保証修理の受け方

本機の保証期間内の修理に関しましては、基本的に
アッセンブリー（ASSY）部品の送付にてご対応いたします。
詳細につきましては、修理申し込みをいただいた際に日高産業（株）
スタッフよりご案内いたします。

■保証できない事項

- 次に示すものに起因すると判定される故障は、保証修理いたしません。
 - 1 取扱説明書の指示に反する使用。
 - 2 保守整備の不備または間違い。
 - 3 弊社が提示している使用の限界を超える使用。
(規定以上の長さの延長コードを使用した場合の電圧降下など。
1日の最大連続使用時間〈P7 参照〉を著しく超えた連続使用など。)
 - 4 不当な修理や改造による故障。
 - 5 ご使用者の不注意による故障。(凍結、落下などによる損傷、破損
およびホース・ノズル詰まりなど)
 - 6 消耗品の消耗による故障および損傷。
 - 7 据付不良による故障および損傷。
 - 8 接続する機器の故障により誘発する故障および損傷。

 - 次に示すものは、保証修理いたしません。
 - 1 地震、雷、台風、風水害、雪害などの天災による不具合。
 - 2 使用に際し品質、機能上影響のない感覚的現象(音、振動など)。
 - 3 薬品、塩害などに起因する不具合。
 - 4 経年変化により発生した不具合。
 - 5 プラスチック部品の自然退色、電源コード、ホースのひび割れ、O
リングの劣化、部材劣化に伴う性能低下など。

 - 次に示すものの費用は、負担いたしません。
 - 1 消耗品。(ハンドグリップ、ウォンド、バキュームホース、清水ホース、
Oリング、アタッチメントおよびそのほか、これらに類する消耗品)
 - 2 お買い上げ販売店以外での修理。
 - 3 点検、清掃、調整、および定期点検整備。
 - 4 この保証書に示す条件以外の補修費用など。
 - 5 本機を使用できなかったことによる不便さおよび損失など。
(事業利益の損失、逸失利益、事業の中断など)
 - 6 洗浄対象物に損傷、破損、変色などが生じた場合。
 - 7 正しく操作をせずにケガを負った場合。

 - 出張修理はいたしません。
-

ヒダカ srv-01C 用
取扱説明書
srv-0025

開発・改良により仕様、外観は変更する場合があります。
この取扱説明書の記載内容は 2021 年 1 月現在のものです。

発売元 **日高産業株式会社**
〒 202-0022 東京都西東京市柳沢 2-3-13-108

電話受付センター 0120-228-238

携帯電話・PHS・公衆電話からは
050-3388-6811

受付時間：月曜～金曜日 午前 9 時～午後 6 時
定休日：土日祝日・年末年始・弊社指定日

【FAX やメールでのお問い合わせは】

FAX：042-463-2386

メールアドレス support@hidaka-shop.com

お名前、お電話番号、商品名（形式）、お買い上げ年月日、お問い合わせ内容をお書き添えの上、送信してください。
定休日（土日祝日・年末年始・弊社指定日）、弊社営業時間外のお問い合わせにつきましては、翌営業日以降のご返信になります。平日のお問い合わせも、翌営業日以降のご返信になる事がございます。